



表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>ア 本市が所有する、または管理する徳川家康公ゆかりの指定文化財にはどのようなものがあるのか伺う。</p> <p>イ 徳川家にまつわる文化資産について、現在、観光の観点でどのように活用しているのか。また、その方針について伺う。</p> <p>ウ 令和6年に策定した徳川家ゆかりの資料展示収蔵施設の基本計画について、旧大河ドラマ館等の活用が難しいことが明らかになったが、現時点でどのように捉えているのか伺う。</p> <p>エ 今年度実施する整備候補地の調査に関し、どのような視点で候補地を選定するのか伺う。</p>	<p>嶋野文化振興 担当部長 中村観光・ブ ランド振興担 当部長 工藤企画調整 部長</p> <p>〃</p>
<p>2 保健所の機能と 施設整備の今後に ついて</p>	<p>保健所庁舎は築44年が経過し、施設の老朽化や耐震性の課題が深刻である。また、敷地の一部が土砂災害特別警戒区域に含まれ、再整備には法的制約もある。感染症対応や災害時の指令機能を担う重要な拠点として、整備方針の早期決定が求められている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 市民の健康生活を支える多岐にわたる業務を維持・強化し、市民サービスの質を向上させるとともに、災害時の迅速な対応を可能にする体制を構築する必要があると考える。そこで、現状の課題認識と今後の施設整備の方向性を伺う。</p> <p>(2) 建て替えまたは移設を含む今後の整備に関して、「浜松市公共施設等総合管理計画」における保健所の位置づけと、シビックコア地区への本庁機能の集約について見解を伺う。</p>	<p>板倉保健所長</p> <p>鈴木財務部長</p>
<p>3 職員体制の整備 (1) 消防職員定数の 在り方と将来を見 据えた人員体制に ついて</p>	<p>(1) 消防局の職員定数は令和6年度に7人増となり、現在897人と伺っている。女性職員の採用や育児休業取得の推進など、働きやすい職場づくりが進んでいる点は評価する。一方で、育休や感染症による休暇で現場の人員不足が課題となっており、「休みにくさ」を感じている職員の声もあり、有休取得の実効性を高める取組が必要ではないかと考える。</p> <p>また、定年延長により平均年齢が上昇し、体力を要する現場業務への影響が懸念される。ベテランの知見を生かしつつ、若手の採用・育成を進めるべきであるが、市民の安全を守る消防においては、定数や人事の在り方の見直しが必要ではないか。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>ア 現場での人員不足への対応と、災害対応体制の維持について、現状と課題を伺う。</p> <p>イ 現場職員からの有休取得に関する声に対し、実効性のある休暇取得促進策の取組について伺う。</p>	<p>那須田消防長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(2) 教職員の適正かつ柔軟な配置について</p> <p>(3) 養護教諭複数配置の更なる取組について</p> <p>(4) 教員採用試験の受験者数減少と人材確保について</p>	<p>ウ 適切な人員配置を含め、将来を見据えた消防行政の在り方について、消防局としての考えを伺う。</p> <p>(2) 質の高い教育環境を整えるためには、学級規模や教育内容、児童・生徒の多様なニーズに応じた教職員の確保が不可欠である。国の基準に基づいた配置に加え、少子化や教育の多様化に対応するには、柔軟な配置が必要ではないかと考える。</p> <p>そこで、本市独自の適正かつ柔軟な教職員の配置に向けた取組について伺う。</p> <p>(3) 養護教諭の複数配置は、心身の健康支援や緊急対応体制の強化において重要であり、養護教諭の負担軽減と、児童・生徒への支援充実の観点からも配置強化が求められている。</p> <p>そこで、本市における養護教諭の配置の現状と課題、今後の取組について伺う。</p> <p>(4) 本市の教員採用試験では、受験者数の減少に加え、中学校では教科間で採用倍率に大きな格差が生じており、保健体育を除く技能教科では低倍率が課題となっている。</p> <p>そこで、必要な人材確保に向けた現状の課題と今後の取組について、以下伺う。</p> <p>ア 教科間における採用倍率格差の課題と認識について伺う。</p> <p>イ 受験者数増加のための具体的な取組について伺う。</p>	<p>野秋教育長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>